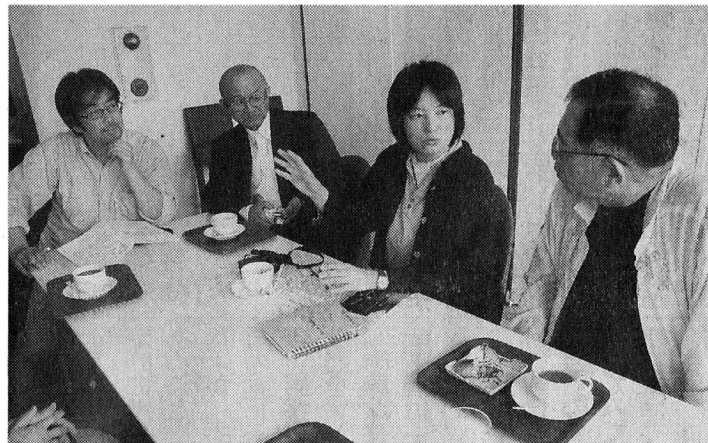


新得町の農村に暮らす2家族描く

# 「空想の森」函館上映を

## 実行委発足、監督と顔合わせ



実行委関係者と  
顔合わせする田  
代監督（右から  
2人目）

………  
性とその夫、1  
970年代に京  
都から入植し、  
子どもが独立後  
も農業を営む夫  
婦の2家族の日  
常を描く。

田代監督は96  
年に新得町で始  
まった「空想の  
森映画祭」に足  
を運んだのを機  
に、02年から映

十勝管内新得町の農村に暮らす人々にスポットを当てたドキュメンタリー映画「空想の森」（2008年）の函館

上映実行委員会がこのほど、発足した。22日には田代陽子監督（41）＝帯広在住＝が来

函し、実行委メンバーと顔合わせを行った。上映は9月27日、函館市湯川町1の市民会館で行う予定だ。

映画は、道外から新得町に移住し、共働学舎で子育てしながら野菜を作る二十代の女

面を撮り始めた。資金難などで中断しながらも、約7年間掛けて完成させた。実行委は「函館映画鑑賞協会や市民有志ら約15人で結成した。

顔合わせで田代監督は「映画好きの方々に呼ばれてうれしい」と話し、「言葉で表せない感覚を映像で表現したかった。撮りながら（テーマを）探した」と明かした。「今は便利な時代だがみんな忙しい、病んでいる。農業も大変だが手作りの野菜を食べ、暮らしに時間を掛けることが逆に豊かではと感じた」とし、「農業従事者や子育て中の人など観客の立場で違った見方ができる作品では」と説明した。

自身も新得共働学舎で2年間暮らした経験を持つ池田誠実行委員長は「農的な暮らしやゆとりは今後も絶対大切になる。ぜひ多くの人に観に来てほしい」と話している。

（新目七恵）